

宗像市議会一般質問

日程		発言順	議員氏名	発言の項目
12/1 (火)	午前	1	安部 芳英 P2	1 豊かな漁師の未来づくり
				2 観光客の受け皿づくり
	午後	2	伊達 正信 P3	3 宗像応援大使の創設
				1 子育て支援施策について
				2 地域とともに歩む学校について
午後	3	北崎 正則 P4	1 岬地区振興と漁港整備について	
			2 道の駅むなかたの再整備について	
			3 元気なまちづくりを担う元気な職員づくりはどうか	
12/2 (水)	午前	6	岡本 陽子 P6	1 偉人に学ぶ地域教育のあり方とは
				2 対話による市民が主役のまちづくりを
	午後	7	花田 鷹人 P7	1 対話による市民が主役のまちづくりを
				2 太陽光発電施設の安全対策について
				1 スポーツ・サポートセンターが市民に果たす役割は
午後	8	吉田 剛 P7	2 宗像版子育て世代包括支援センターの設置を	
			1 農地・水保全管理支払交付金の取り組みに一層の推進を	
			2 圃場の再整備へ向けた取り組みの推進を	
12/3 (木)	午前	11	森田 卓也 P9	1 日の里地区都市再生事業の進捗は
				2 ラグビーW杯のキャンプ地誘致に向けて
	午後	12	末吉 孝 P11	3 グローバル人材育成事業の展開は
				1 総合スポーツセンターの抜本的見直しについて
				2 離島振興・大島の観光整備を急げ
午後	13	石松 和敏 P12	1 河東コミセン出入り口の対策について	
			2 小中一貫校誘致については検討を	
			1 世界遺産登録第四弾 神と景観を巡る観光の街づくりについて	
午後	14	井上 正文 P13	1 市街化調整区域における開発行為の抑制策は	
			2 漁業収益に大きな影響をもたらす鐘崎漁港荷捌き場整備	
			3 東郷駅南口の樹木伐採について	
12/4 (金)	午前	16	小島 輝枝 P14	1 道路陥没を未然に防ぐために路面下総点検を
				2 若者を始めとする有権者の投票率向上の取組
12/3 (木)	午後	15	新留久味子 P13	1 地域経済の活性化に向けた取り組みについて
				2 空き家対策について
				3 「海賊とよばれた男」映画化に向けた本市の取り組みについて
12/4 (金)	午前	16	小島 輝枝 P14	1 大島の公共施設の利活用について
				2 知的障がい者に紙おむつの支給を
12/4 (金)	午前	16	小島 輝枝 P14	1 「共に暮らし共に働く」を当たり前の風景に
				2 みんなで喜べる世界文化遺産登録を目指して

一人あたりの質問時間は答弁を含めて最大55分です。【質問者数：16人、質問項目：35項目】
一般質問は通告制です。

1 豊かな漁師の未来づくり

平成29年に宗像市で全国豊かな海づくり大会の開催が決定した。この大会の開催を大きな契機として将来にわたり本市にとって真の豊かな海づくり、そして豊かな漁師づくりの実現に向けてスタートを切る必要があり、そのために本市が一体となって準備や体制づくりを行う必要があると考える。

- (1) 本市の「まち・ひと・しごと総合戦略」（以下「総合戦略」）の「水産業の6次産業化等の推進」（重点取り組み）の中に「国内外への販路の拡大」とある。その具体策として本市へ海外で活躍する有名レストランのシェフを招待して、本市の食材を使った料理試食会（市内の飲食店の料理人、関係者向けに試食会、ディナー会を開催し市内職人の研鑽を深める機会）を開催することを提案する。
- (2) 本市の「総合戦略」の「水産業の基盤強化」の中に「漁協青壮年部への活動支援」とある。その具体策として漁業経営やマーケティング、ブランディング勉強会など、漁協が主催する事業に講師を招聘する費用について支援を行うことを提案する。
- (3) 宗像で水揚げされる魚を紹介する「おさかなポスター」を作成し、魚食文化の啓発や「魚のまち宗像」のブランド発信を行うことを提案する。
- (4) 漁港内の遊休地、使われていない施設を漁師の所得向上の場として活用できるように支援を行うことを提案する。

2 観光客の受け皿づくり

平成29年夏に世界遺産登録が決定することを想定したうえで、観光メニューの充実など受け皿づくりの必要性が高まってきている。本市の「総合戦略」の「観光の活性化」の中にも「世界遺産に関する受入準備を進める」とある。また、昨今の観光については海外からの観光客も含めて旅行代理店に依存せずに個人や集団で自ら行動し、「多様な体験」を通じてその地域の歴史や文化に触れる旅に対するニーズが増えてきている。

(1) 「むなかた体験補助制度」の提案

一定の基準をクリアした団体等（企画者）が、本市において日帰りや宿泊によって一定数以上の市外の人々に「多様な体験」（あらかじめ基準を設けた体験メニューや地域住民との交流メニュー）の機会の提供を行う場合において、その宿泊や体験活動に補助金を交付する制度の創出を提案する。

(2) 少年自然の家「玄海の家」では、様々な体験メニューがあり地域事業との連携も行われている。今後、海づくり大会の開催地の施設としてふさわしい整備や世界遺産登録後の受入施設としての活用促進について、福岡県に対して施設と体験メニューのさらなる充実策の働きかけを行うことを提案する。

(3) 旅館等宿泊施設整備の促進

本市の最大宿泊者数はおよそ2500人程度であり、プリンセス駅伝の開催だけでも宿泊受入が厳しい状況である。宿泊の受け皿づくりとしての機能の充実策については、平成27年3月に旅館施設の管理者に対して宗像市旅館等施設整備資金利子補給補助金を交付開始しているが、交付実績は現在2件と反応はあまり良いとは言えない状況にある。

① 現行の補助規定の緩和が必要ではないか。

② 既存の旅館施設の管理者の選択肢を広げる工夫が必要ではないか。手法の一つとして、市内

においてゲストハウスの開業を希望する者とのマッチング機会の創出や経営アドバイス、成功事例の紹介などの情報提供が必要ではないか。

③空き家を再利用してゲストハウスとして活用する仕組づくりが必要ではないか。

(4) 本市の「総合戦略」の「観光の活性化」の中に「ICTを活用した観光プロジェクト」とある。そこで新たな観光客の取り込み手法の一つとして、携帯端末の位置情報を使った既存のオンラインゲームの活用について検討することを提案する。

3 宗像応援大使の創設

(1) 福岡県・宗像市・福津市は共同で「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議を設置しており、その中で森口博子さん、藤本隆宏さんの2名を『『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群』世界遺産応援大使として任命している。今後の世界遺産登録のさらなる推進に向けて海外（シルクロード関連諸国）からの世界遺産応援大使についても検討することを提案する。

(2) 宗像の魅力を国内外に発信することや企業誘致、産業振興、健康増進、スポーツ振興、観光振興等、全てのまちづくりのブランド化を図ることを目的に「宗像応援大使」・戦略部門（シティマネージャー、経済専門家）・文化芸術部門（作家、漫画家、芸術家、建築家）・健康スポーツ部門（スポーツ選手、指導者）・観光PR部門（芸能人、料理人）等を創設し各界で活躍する著名人を大使として任命することを提案する。

発言順 2

8番 伊達 正信

党派：無所属 / 会派：宗像志政クラブ

1 子育て支援施策について

少子高齢化の中、子育て支援は国家的課題であり、本市においても定住化施策の大きな柱のひとつと考える。子育て世代の若者たちが安心して暮らせるまちづくりのために以下の質問をする。

(1) 北九州市が実施している「北九州市赤ちゃんの駅」の取り組みが全国の自治体で話題になっている。本市でもこのような取り組みを実施できないか。

(2) 近い将来人材不足が懸念される保育士、幼稚園教諭の人材確保のため「潜在人材バンク」を設立出来ないか。また、保育士資格はないが市内の保育所で働いている人で資格取得希望者を対象にした、資格取得支援事業を実施できないか。

(3) 未就学児を持つ転入家族の不安感や孤立感解消のため、イベントや茶話会等を開催し、互いの情報交換や子育て関係機関との交流事業を実施できないか。

(4) 保育所等で幼児が体調不良になった時、保護者が迎えに行くことが困難な場合に子どもクリニック等と連携し、保護者に代わって迎えに行き、当該施設にて保育するサービスを検討できないか。

(5) 教育子ども部職員全員に市内保育所・幼稚園にて保育体験や保育知識を学ぶための受講を実施し、子育てに対する理解をより深め、さらなる子育て支援施策充実を図れないか。

(6) 家庭の所得格差により、教育格差が生じている。家庭の経済環境に関わらず、子どもたちには平等に学習機会を与えて欲しいと願うものである。それらの子どもたちの学習意欲を高めるためにも、低所得者層の家庭に学習塾や習い事など、学校以外の施設で学ぶ費用の一部を助成できないか。

(7) 民間で不登校の子どもたちの居場所と学習支援を行っているフリースクールと呼べるボランティア団体が本市にもあるが、活動拠点・資金面等課題も多く、将来の活動が危ぶまれている団体もある。不登校・いじめ問題を論じる時、子どもたちの症状は多岐にわたり学校に復

帰させることだけが解決の手段とは言い難い。民間ボランティア組織の活動は一人一人により
そい対応することも可能であり、不登校等の子どもたちには有効な手段と考えるが、フリース
クールについての本市の見解を伺う。

2 地域とともに歩む学校について

「学校運営協議会」の現状と成果、及び課題について伺う。

発言順 3

7番 北崎 正則

党派：無所属 / 会派：とびうおクラブ

1 岬地区振興と漁港整備について

- (1) 鐘崎漁港整備の進捗状況はどうか。
- (2) 漁港整備を通して、岬地区振興にどう生かそうとしているのか。
- (3) 「第37回全国豊かな海づくり大会」との関連で整備計画にどのような影響があるのか。

2 道の駅むなかたの再整備について

- (1) 駐車場・渋滞対策について、どう解決しようとしているのか。
- (2) 来館者に対する更なるサービスについて、どう進めようとしているのか。
- (3) 大島・玄海・岬・池野地区などと、どのような連携を進めようとしているのか。

3 元気なまちづくりを担う元気な職員づくりはどうか

- (1) 職員の確保に関して
 - ①平成27年度中の退職予定者の人数は。
 - ②平成28年度の採用者の人数は、また、補欠合格者制度は活用できているのか。
- (2) 市民サービスへの影響について
 - ①職員のいびつな年齢構成はどのように改善されようとしているのか。
 - ②正規職員と非正規職員のバランスをどう考え、今後、どう進めようとしているのか。

発言順 4

4番 高原 由香

党派：無所属 / 会派：みらいの和み宗像

1 偉人に学ぶ地域教育のあり方とは

- (1) 地域の未来を担う子どもたちの教育について
 - ①生きる力、誇りを育む郷土教育の具体的な方針とその方法は。
 - ②全国学力・学習状況調査の現状を踏まえて、今後のグローバル人材育成における課題は。
- (2) 職員の人財育成について
 - ①ダイバーシティ&インクルージョン（※）の観点から、今後の女性職員の意識向上と活躍の
対策は。
 - ②地域特性を活かした宗像独自の研修の具体策と実行は。

※ダイバーシティ&インクルージョン：略してD&Iといい、多様性を受容するということ。

1 対話による市民が主役のまちづくりを

防災や生活支援・介護予防など、地域住民が主体的に関わる（話し合い、決定し、行動する）ことが、安心して住み続けられる地域づくりには欠かせなくなっている。また、公共施設のアセットマネジメントなど、市民の合意を得なければ進まないことも出てきている。

「第2次宗像市総合計画（以下「総合計画」と言う）」においては、「協働の推進」を二つの戦略的取組の一つに据えて、全ての施策の展開において常に意識する事項としている。市民と行政が対等な立場で一緒に進めるためにも、あらためて「協働」についての認識を、職員、市民の双方が確認する必要がある。

また、協働で進めるためには、市民の声が反映され主体的な関わりにつながるものが不可欠だ。その一つのしかけとしてワークショップは有効な手段になると考える。この数年本市でも、「総合計画」やコミュニティの「まちづくり計画」などの策定過程に、ワークショップが盛んに取り入れられるようになって来た。しかし、本来の目的や特色が生かされず、一部の人の独壇場になったり、議論がかみあわなかったりすることもあるようだ。話し合いの場を、参加者の意見が十分に引き出され、主体的な考えを持てる場にするために、さらに工夫が必要だ。

(1) 「協働」について

- ①「協働」で進める場合、どのような方針で取り組んでいるか。
- ②職員の「協働」についての理解を進めるための課題は何か。
- ③職員に対して今後どのような研修を考えているか。
- ④市民団体や企業と「協働」で事業を進める際の課題は何か。
- ⑤総合計画の実施において、PDCAの実践を市民とどう進めるつもりか。特に「C（評価）」において市民にどう関わってほしいと考えているのか。
- ⑥本市の教育大綱には、「学校・家庭・地域が協働して教育活動に取り組む」とあるが、地域や家庭にどのような取り組みを期待しているのか。

(2) ワークショップについて

- ①最近実施した、「総合計画」や「まちづくり計画」の策定過程でのワークショップについて、どう評価しているか。課題は何か。
- ②参加者と同じ目線で話し合いの場の整理ができるファシリテーターが、コミュニティや自治会など地域の話し合いの場でますます必要となってくると思われる。市民ファシリテーターを養成してはどうか。
- ③ファシリテーションのスキルを身に着けた上で話し合いの場に参加する人が増えると、話し合いの質が高まると考える。市民向けのファシリテーションの研修をしてはどうか。

(3) まちづくりに関するワークショップやアンケートに、子どもたちの参加を進めてはどうか。

2 太陽光発電施設の安全対策について

今年8月、台風により県内の小学校で太陽光発電パネルが屋上から落下し、問題になった。市内の未利用地や遊休地、公共施設等に設置された太陽光発電施設について、豪雨や暴風による被害を心配する市民の声がある。

- (1) 公共施設に設置している太陽光発電施設について、どのような安全対策をとっているのか。
- (2) 市内の未利用地や遊休地に設置された太陽光発電施設について、どのように把握しているのか。

(3) 市民が心配な状況があった時設置者へ連絡ができるよう、連絡先の表示について設置者への働きかけは行っているのか。

発言順 6

6番 岡本 陽子

党派：公明党 / 会派：公明党

1 スポーツ・サポートセンターが市民に果たす役割は

総合スポーツセンター整備計画については、現時点での実現は事実上困難と判断し、第2次スポーツ推進計画に掲げる各種施策の推進に支障をきたすことのないよう、総合スポーツセンター整備計画が具現化するまでの間は既存市民体育館を中核拠点として暫定的に位置づけ、スポーツ・サポートセンター機能の付加など必要最小限の施設整備を実施するとのことである。スポーツ・サポートセンターが市民に果たす役割について執行部に問う。

- (1) 総合スポーツセンター整備計画が具現化するまでの間は既存市民体育館を中核拠点として暫定的に位置づけとあるが、その意味は。
- (2) 第2次スポーツ推進計画の計画期間内には、中核拠点にスポーツ・サポートセンター機能を付加する施設整備を行う必要があると示されているが、その規模とかかる費用は。
- (3) 本市のスポーツに関する課題。その課題に対してスポーツ・サポートセンターが果たす役割と効果は。
- (4) 本年度のスポーツ推進計画で示されたスポーツ・サポートセンター（仮称）組織構成は継続か。またそれに付随する体制も継続か。
- (5) 市民への説明は。
- (6) 少子高齢化、人口減少が予測される状況において、スポーツ・サポートセンターが市民に対して果たす役割は。

2 宗像版子育て世代包括支援センターの設置を

本年9月議会において母子を取り巻く環境の変化からフィンランドのネウボラというしくみを参考に、妊娠から出産、子どもが生まれた後、基本的には6歳まで切れ目なくサポートを提供する総合的な支援サービス（子育て世代包括支援センター：日本版ネウボラ）が全国的に着目されていることを述べた。そこで、産後ケアを中心に、そうした組織づくりの必要性について執行部の考えを聞いた。今後の母子を取り巻く環境が変化することを考えると、本市においても母子サポートのための総合的な支援サービスを充実させることは必要である。元々子育て支援が充実している本市は、子育て支援に関する業務をセンター化する基盤が整っていると考える。宗像版子育て世代包括支援センター（宗像版ネウボラ）を設置してはどうか。執行部の考えを問う。

- (1) 保健師や助産師、ソーシャルワーカーらの専門家がワンストップで妊娠から育児まで切れ目なくサポートする宗像版子育て世代包括支援センター（宗像版ネウボラ）を設置する構想、時期、それにかかる費用は。
- (2) 宗像版子育て世代包括支援センターを設置する場合の効果と課題は。
- (3) 子育ての始まりである妊娠・出産を取り巻く環境の変化は特に著しく、サポートを必要とする時期である。宗像版子育て世代包括支援センターにおける産後ケアの目的と位置づけは。
- (4) 宗像版子育て世代包括支援センターに必要な体制づくり（人、組織、建物）は。

1 農地・水保全管理支払交付金の取り組みに一層の推進を

農林水産省では、平成19年度から「農地・水保全管理支払交付金」（旧農地・水・環境保全向上対策）により、地域共同による農地・農業用水等の資源の保全管理と農村環境の保全向上の取り組みに対し、支援を行っている。

本市における当事業の取り組み状況について伺う。

- (1) 現状と課題について
- (2) 今後の計画について

2 圃場の再整備へ向けた取り組みの推進を

以前に基盤整備された圃場において、排水施設、農業用水利施設等の経年劣化が見受けられる。農業の生産性向上、農地の集積・集約化のためには圃場拡大や排水・水利施設の再整備等耕作条件の改善が急がれる。

圃場整備の現状と今後の予定について伺う。

- (1) 圃場区画拡大について
- (2) 圃場排水設備について
- (3) 農業用水利施設について
- (4) 耕作放棄地について

1 日の里地区都市再生事業の進捗は

(1) 2015年3月に宗像市都市再生プロジェクト専門家会議より団地再生の提言書が提出され、民間5社と都市再生連携協力に関する協定が結ばれた。再生のためのさまざまな事業がスタートしたが、その進捗は。

(2) 東郷駅南口駅前広場を含めた日の里地区の景観の考えは。

2 ラグビーW杯のキャンプ地誘致に向けて

2015年ラグビーワールドカップイングランド大会において、日本代表の活躍により日本のラグビーを取り巻く環境は一変した。この時代の流れにのって、本市がアドバンテージを持つラグビーに関する取り組みを強化すべきである。

- (1) キャンプ地誘致の進捗と今後の課題は。
- (2) 市民へのラグビー普及の考えは。

3 グローバル人材育成事業の展開は

平成27年4月に作成されたグローバル人材育成プランと多くの議論により、グローバル人材の必要性、宗像でグローバル人材を育成する歴史の必然性や物語性が明らかになり、宗像版グローバル人材育成の基盤は固まった。

今後の事業展開は、イベントや新規事業、関係各課との協力などにより世界とつながる機会を増やし、市民への周知とブランディングを行うべきであると考えます。

グローバル人材育成事業の今後の展開の考えは。

1 総合スポーツセンターの抜本的見直しについて

総合スポーツセンター整備計画について、総合スポーツセンター整備審議会からの答申を最善の策としながら、現時点での実現は事実上困難と判断し、計画の実施は将来に見送ることに決定した。

今後の進行計画について、以下の項目を伺う。

- (1) 第2次スポーツ推進計画に掲げる各種施策の推進に支障をきたすことのないよう、総合スポーツセンター整備計画が具体化するまでの間は、既存市民体育館を中核拠点施設として暫定的に位置づけ、スポーツ・サポートセンター機能の付加など必要最低限の施設整備を実施しているが、具体的にどのようなものか、施設整備の予算はどのくらい必要なのか伺う。
- (2) アセットマネジメント推進計画（案）では、既存の3体育館・弓道場は総合体育館建設に伴い解体する方針であった為、審議会では十分な検討がなされていない。今後の維持更新計画をどのような場で決定し、計画を作成するのか伺う。
- (3) 将来構想について財源を基軸として抜本的に見直すとともに、施設整備の基金増設も検討するとしているがどのようなものか。また国の補助制度の動向や県のスポーツ施設誘致・近隣市との連携など、様々な角度から将来像を考えるべきだと思うが、市の将来構想について伺う。

2 離島振興・大島の観光整備を急げ

世界遺産国内推薦決定後、宗像大社・大島を巡る観光バスツアーが人気と聞く。世界遺産登録後はさらに増大することが予測されるが、現状での施設整備・観光客の対応、また今だからこそ離島振興を含めた総合的な計画を急ぐ必要があると考え、以下の項目について伺う。

- (1) 個人・バスツアー団体客の現状把握とその対応はどのようにされているのか、観光会社・地域・行政との連携事業など行われているのか伺う。
- (2) 大島で観光団体を受け入れる場合、一番の不便は昼食会場がないことと聞く。現在お弁当で対応されているが、気象状況によりバス車中となる。遊休施設・空き家など利用できる施設を昼食会場として利用できないか、空き家の現状と遊休施設の今後の利用計画について伺う。
- (3) 離島振興計画で甘夏のオーナー制度、栽培・試験的なオリーブ植樹などを行っているが、将来の観光資源として利用できないのか、今後の市の活用方法について伺う。
- (4) 大島牧場は現在個人での運営がなされているが本年度で最終年度となる。現状での課題と対策方法、今後の観光施設として活用できないのか、今後の市の活用方法について伺う。
- (5) 観光客対応から地域活性化、施設整備・人材育成も急務と考えるが、国の進める地域おこし協力隊など補助制度の利用により、人材不足が解消できると考えるが、市の今後の方針を伺う。

1 河東コミセン出入り口の対策について

河東コミュニティ・センターの南側（県道側）出入り口の危険な箇所については、議会でも改善提案を行ってきた。また、コミュニティの役員、JAむなかた、そして行政の3者が協力して警察との協議を進めていくようになっていたが、ホテルの里とコミュニティ・センター側からの車の出入りの際の混雑や危険な状況は何も変わっていない。

- (1) 現状が変わらない原因は何か。
- (2) 市としてこの出入り口を現時点でどのようにしたいと考えているのか。
- (3) JA河東支所への陸橋の一部に錆による腐食が見られる。補修は検討しているのか。
- (4) 県道からの進入道路が大雨の時に冠水状態となる。この道路のかさ上げが必要である。同時に山田川の冠水時に隣接する民家に被害が出るようなことはないのか。

2 小中一貫校誘致については検討を

宗像市は博多学園との間で小中一貫校誘致の協定を結んだ。今日、宗像市の子どもを取り巻く現状を見ると、「子どもの貧困、教師の多忙、子ども会の崩壊、自尊心の低下、不登校など」が山積みしているのではないか。これらの問題を先送りすることはできない。

- (1) 小中一貫校誘致については、場所の問題も指摘されている。行政としてのかかわりを検討すべきではないか。
- (2) 行政として公教育の充実に全力を注ぐ必要があると考える。その一つとして、検証済みの少人数学級（特に小学1、2年と中学1、2年）の検討を求める。

1 世界遺産登録第四弾 神と景観を巡る観光の街づくりについて

先の9月定例会においては、世界遺産登録第三弾として「イコモス対処と当面の課題」について質問した。本定例会では、引き続き第四弾として、宗像大社周辺の「街づくり」について提案を交え質問する。

- (1) 未来へ手渡す新しい価値の創造

①神と景観を巡る観光の街

表題のネーミングについて説明する。これから議題とする宗像大社周辺の街づくりにおける、街の呼称である。「神と景観を巡る観光の街」を提案する。

ただの観光目的の街づくりであってはならない。神への誘いと景観形成を一体化することで千古不易の歩みを受け継ぐ人々の暮らしの中に安らぎと潤いがあり、宗像の人々が誇りとする“街の形”を作るのである。

ア 神と景観を巡る街づくりにおける理念、すなわち何を重視して、どういう特徴の、どういう規模と構成の街を作るのかについて、市長の基本認識を伺う。

イ 次いで出来上がりの絵姿はどういうものか、類似の神社として伊勢・出雲・熊野にそれぞれ特徴があるように、宗像にも宗像オリジナルがあれば良いと思う。宗像の独自色を作り出すとすればそれは何か。

②「神宿る島 宗像・沖ノ島と関連遺産群」というタイトルについて

渡ることのできない沖ノ島に代わり、場所を変えて宗像大社周辺の街づくりにおいては、この神秘性と特異性を実感する仕組みづくりが是非とも必要である。そのためには沖ノ島信仰と歴史を理解できる展示・研究施設として、世界遺産センターの建設は必須の重要課題である。

ア 遺産センターにおける展示方法の一つとして、千葉県佐倉市の国立歴史民族博物館にある古代祭祀模型のようなものについて、どういう考えを持っているか。

③歴史文化を大切にす次世代の担い手がこの街に育つ

ア 歴史文化の継承は、未来展望を描く視点が必要。世界遺産センターの一つの役目として、主に中高生を対象とした歴史文化の学習拠点を置くなど複眼のマルチ思考は如何か。

(2) 計画の策定に向けて—今後の取り組みと体制

①課題と指針の決定について

街づくりにおいては、第一に“課題と前提条件などの整理及び計画策定のための指針”が必要である。この地域には観光受け入れの下地は皆無に等しいと言えるため、課題への取り組み、前提条件の設定が必要になる。

ア 街づくりにおける大きな課題をどう捉えているか。

イ 計画策定の前提となる予算規模と財源はどうお考えか。

②整備計画策定の手順とスケジュールについて

この街づくり事業は、本市にとって大きなプロジェクトである。本格的な完成には数年から10年程度は必要と思われるが、当面の来訪者対策として暫定的な受け入れ対策も必要である。

ア この場合二つの選択肢がある。一つは暫定措置を先行させて、これに上乘せする形で積み上げていく方法。他は、当初の問題点を覚悟の上で本格措置をひたすら突き進む方法。本市の考えはどちらか。

イ 次にa 調査研究、b 計画策定、c 予算化と実行の三段階の手順を考える時、当面のスケジュールは、それぞれa、b、cが27、28、29年度と捉えて良いか。

③庁内の専任部署について

このプロジェクトの特徴であり、それゆえに難しいのは宗像大社という神に奉仕する神聖性と作法のしきたりを熟知した上で、これを尊重した観光街づくりだということである。

ア このため人選と体制づくりには特段の配慮が必要である。そこで専任部署の設置を提案する。その上で神社職員、氏子会組織を初めとする関連の民間団体の参加協力が必要である。この点についてどう考えるか。

④官民協議体の設立について

このプロジェクトは計画段階から実行段階に至るすべてにおいて、民間の力を招き入れる必要がある。

ア いわゆる官民協議体を設立して、官民分担と官による民の誘導に関して当初から密接に協議する体制についてどう考えるか。

⑤道主青年交流会（略称「道青」）の立ち上げについて

道青は本市における各種団体のうち、その青年部の方々が自然発生的に結集した交流会である。過去の実績と反省のもとに、所属する団体の枠を越えて連携し、目的を共有してその実現に努力する他の自治体にはない組織である。

ア この道青は官民協議体の民側の相手となり得ると考えるが如何か。

⑥国県の大型予算の獲得について

このプロジェクトの予算面において地方創生との関連部分が相当にあると思われる。若者参画、子育て対策、雇用と産業振興などが該当する。

ア 「(1) 未来へ手渡す新しい価値の創造」で指摘した宗像の夢を実現するには、大型予算の獲得が必須条件となる。世界遺産に関連するもの、しないものを弁別しながらそれぞれの道において可能性は大きいと思うが如何か。

(3) 個別の課題について

①道の駅むなかたは現在既にオーバーフローしている。宗像大社周辺と道の駅を周遊ルートとすると共に、このプロジェクトの駐車場の一部に、道の駅に類似する直売所を建設することについてどう考えるか。

②門前町の環境整備として69号線を中心に、参道・桜並木・灯籠・景観のための植樹が望まれている。緩衝地帯の景観形成として優先順位は高いと思われるが、どう考えるか。

発言順 12 18番 末吉 孝 党派：日本共産党 / 会派：日本共産党

1 市街化調整区域における開発行為の抑制策は

- (1) 市街化調整区域の開発行為について、どのような条件を満たさなければならないか。
- (2) 規制基準未滿の開発行為についても、届出の義務を課していると思うが実情はどうか。
- (3) 届出を受けて、地元住民との話し合いや同意について、行政指導はどのように行われるのか。
- (4) 名残地区、平井地区の開発行為についてはどのようになっているのか。
- (5) 太陽光発電施設に関わる開発行為については、緑の保全や景観保護の観点から何らかの抑制基準の条例制定が必要なのではないか。

2 漁業収益に大きな影響をもたらす鐘崎漁港荷捌き場整備

- (1) 鐘崎漁港荷捌き場整備計画の進捗状況は。
- (2) 荷捌き場としてどのような機能を整備しようとしているのか。
- (3) EU衛生基準についてどのように考えているか。
- (4) 宗像の今後の漁業収益に大きな影響をもたらす施設であり、整備計画については漁協関係者などと十分な検討が必要と思うがどうか。

3 東郷駅南口の樹木伐採について

- (1) 東郷駅南口駅前広場整備において、樹木伐採に至った経緯とその理由は。
- (2) 物理的に整備計画の障害になる場合とそうでない場合があると思うが、どのように仕分けたのか。
- (3) 駅前の樹木は日の里団地とともに40数年経過してきたもの。団地住民にとって愛着とともに都市景観の一部となってきたものであり、その伐採については市民感情に十分配慮する必要があると思うが、その手立てはどのようにされてきたのか。

1 道路陥没を未然に防ぐために路面下総点検を

(1) 道路陥没事故の実態について

- ①過去5年間程度の道路陥没事故の件数並びに原因等について実態を伺う。
- ②現状の道路・橋梁の維持管理の手法について伺う。

(2) 公共施設アセットマネジメント推進計画における道路・橋梁の対応について

道路延長は1027.2km、道路部面積は5,320,210㎡であり、方針としては、道路の安全確保を最優先に維持管理を行うとし、道路舗装の劣化状況（管理状態による緊急対応の必要性）や災害対応における重要性、生活・産業における動線上の重要性を考慮し、補修を実施するとあるが、道路陥没の危険性がある路面下空洞調査はどのように対応するのか伺う。

(3) 国土強靱化計画と連動した路面下総点検について

道路や河川の護岸などの路面下の空洞化は、外見からはわからない危険が潜んでいる。この路面下の空洞化の原因は、大きな地震の時の液状化や地下水位の移動による砂の流出、埋設された水道管や下水道管などライフラインの老朽化による破損での砂の流出などが考えられる。

国土強靱化アクションプラン2015には、「路面下空洞調査の実施」が明記されており、2013年1月には防災・減災を推進する予算制度として防災・安全交付金制度がつくられた。路面下空洞・道路橋床版の調査費と補修費の55%が交付金対象とされており、福岡県内においても福岡市を始め調査を実施する自治体が増えている。本市においても本制度を活用し、事前調査を行い、道路陥没を未然に防ぐべきと考えるが執行部の見解を伺う。

2 若者を始めとする有権者の投票率向上の取組

(1) 有権者一人一人に着目したさらなる投票機会の創出や利便性の向上について

近年、若者をはじめとする有権者の投票率が低下傾向にあるなか、有権者が投票しやすい環境を一層整備し、投票率の向上を図っていくことは喫緊の課題である。明年の参議院選挙から選挙権が18歳に引き下げられることも見据え、有権者一人一人に着目したさらなる投票機会の創出や利便性の向上が求められる。他自治体では、期日前投票所を商業施設等や大学構内に設置して若年層への啓発や投票率向上に努めている事例もある。

また、前回の宗像市議会議員選挙後の平成24年12月議会においても、議員から期日前投票所を増やす方向で検討できないかと質問があり、当時の総務部長から検討したい旨の答弁があったが、その後の検討結果を伺う。

(2) 投票所閉鎖時刻の繰り上げについて

報道によると、古賀市は明年の参議院選挙から、市内にある全投票所の閉鎖時刻を2時間繰り上げることを決め、これまでの午後8時から6時に変更する。立会人の負担軽減や経費削減につながるのが狙いで、市民への意識調査で約7割が賛成したとのこと。市選挙管理委員会は昨年、期日前投票の定着や午後6時以降の投票率が他の時間帯に比べ低いことなどから、時間短縮を検討してきたとのこと。このことについての本市の見解を伺う。

(3) 主権者教育について

明年の参議院選挙から選挙権が18歳に引き下げられることについては、若い世代の意見が国や地方公共団体の政治に、より反映されることとなり、高く評価している。今後は学校における主権者としての教育が重要であり、高校生に限らず小中学生の段階から、政治や選挙の大切さを教える必要があると考えるが、教育長の見解を伺う。

1 地域経済の活性化に向けた取り組みについて

- (1) 宗像市商工会プレミアム付き商品券発行事業の目的と効果は。
- (2) 本事業の問題点や課題は何か。
- (3) 来年度の事業内容はどのようなものか。

2 空き家対策について

- (1) 福岡県の空き家活用モデル事業にも採択された「空き家借上げ事業」はどのようなものか。
- (2) 本市の空き家対策にどのような効果があると考えられるか。
- (3) 今後の普及をどのように行っていくのか。

3 「海賊とよばれた男」映画化に向けた本市の取り組みについて

- (1) 現在までに本市としてどのような働きかけを行っているのか。
- (2) 映画化による本市への効果をどのようにとらえているのか。
- (3) 映画をきっかけに宗像大社や赤間宿を訪れる観光客への対応策は。

1 大島の公共施設の利活用について

本市にある2つの離島は、少子高齢化が進み、人口減の問題、とりわけ就労人口をどう確保していくのかなど大きな課題が山積している。

この解決には、島民の思い、島の文化や生活の生業など住民の皆さんと行政が知恵を出し合っていくことが重要なことだと考える。

今回は、特に大島にある公共施設の今後の利活用について、島で子育て中の保護者から寄せられた要望を中心に市の考えを伺う。

- (1) 現在、閉鎖中の大島資料館は今後どのような活用を考えているのか。
- (2) 幼児期の子どもを抱えている保護者にとって同じ年頃の子どもの持つ保護者と集い、子育ての悩みなど語り合うことは大切な時間となっている。大島ではコミュニティ・センターがその場所になっているが、坂道の上に立地しているため、子どもを抱えた保護者からコミュニティ・センターまでは大変という声が寄せられている。

そこで、子育て中のママたちが日常的に集まる場所として、夏場しか利用していない「観光休憩所」の貸し出しが検討できないか。

- (3) 野外にあるトイレ、公営住宅の今後の改修について市の考えを伺う。

2 知的障がい者に紙おむつの支給を

先日、知的障がいのある40歳代の2人の息子さんを持つ家族の方から相談を受けた。

「2人とも知的障がい者で排泄が自立していません。紙おむつが欠かせない生活です。私も年金生活者になり、紙おむつ代の負担が重く、これからの生活も不安です。せめて紙おむつ代の補助が出来ないものでしょうか」といった内容だった。

紙おむつの支給制度は、知的障がい者は対象外となっている。さらに、介護保険制度では「特定疾患」でないと40歳を超えていても紙おむつの支給サービスは受けることはできない。

そこで、家族に重い負担となっている紙おむつの支給制度を検討できないか。

1 「共に暮らし共に働く」を当たり前の風景に

(1) 平成23年8月に庁内フロアーにオープンした福祉売店「ハートループ」のこの4年間の評価をお伺いする。

- ①福祉売店設置目的であった、障がい者の社会参画・就労支援・障がい者に対する理解についての評価とその相乗効果は。
- ②販売増に繋がる支援として、どのような事を行っているか。
- ③来庁者の利便性、販売増のためにも庁内フロアーに飲食スペースの設置を提案する。

2 みんなで喜べる世界文化遺産登録を目指して

(1) 10月24、30日にイコモス専門家たちの視察が行われたが、専門家の「神宿る島 宗像・沖ノ島と関連遺産群」の評価をお伺いする。

(2) 今回の国内推薦候補決定後、大島を訪れる観光客が多くなり、島民の嬉しい悲鳴と同時に戸惑いの声が聞こえている。

- ①交通アクセスはどう考えているのか。
- ②本土側（神湊ターミナル）の駐車場の満車時が多く苦慮していると聞くが、今後の対応はどのように考えているか。
- ③島の活性化のための絶好のチャンスだと考えるが、市が描く大島のグランドデザインをお伺いする。

【質問者数：16人、質問項目：35項目】